

生物多様性社会

生物多様性保全

304-2

基本的な考え方・方針

ユニ・チャームでは、事業活動によって生物多様性を毀損させた場合、バリューチェーン全体に甚大な被害を及ぼすと考え、持続可能性に配慮した資源の利用を推進しています。特に原材料として多く用いているパルプや紙などは、「森林由来の原材料調達ガイドライン」を定め、適切な管理がなされた森林からのみ資材を調達し、違法伐採材の排除や地域住民ならびに関係する労働者の権利保護などに努めることで「生物多様性の主流化」に貢献しています。

2020年5月に公表した「環境目標2030」では、「森林破壊に加担しない(調達対応)」をテーマに、生物多様性の保全に貢献するべく、「2050ビジョン」として「購入する木材について自然森林破壊^{ゼロ}社会の実現」を掲げています。このビジョンに向けて、パルプやパーム油のトレーサビリティの確保と原産地確認の完了および認証材への100%切り替え、使用済み紙パンツ(紙おむつ)のリサイクル推進を2030年目標に設定しました。

▶ 森林由来の原材料調達ガイドライン

序文

ユニ・チャームは、近年の地球温暖化・生物多様性の減少などの環境問題の重大性を認識して持続可能な原材料調達を目指しています。当社の事業活動が自然資本に依存している状況を理解し森林破壊ゼロを支持しています。また、昨今のパーム油のプランテーションで発生している環境問題にも対応を進めます。

方針

ユニ・チャームは、近年の気候変動リスクが高まる中、持続可能な社会の構築に向けて環境負荷低減・環境保全に努めるとともに、生物多様性に配慮したサプライチェーン管理の推進に努めます。

そのために環境基本方針や調達基本方針を生物多様性に対してより具体化した森林由来の原材料調達ガイドラインの運用によって資源の保全に努めます。

目標

2030年までに、ユニ・チャームの吸収物品に使用されるパルプ、ペットフードにごく少量使用されるパーム油について、持続可能性に配慮した原材料または再生した原材料の購入率100%、トレーサビリティ100%完了を目指します。

古紙・再生パルプ以外のバージンパルプを使用する場合は、サプライヤーとの協働により森林破壊ゼロを十分に確認します。具体的には、パルプ・紙についてPEFC (Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes) 等の第三者認証がとれた原材料または、保護価値の高い森林(HCVF/High Conservation Value Forests)や炭素貯留量の多い森林(HCSF/High Carbon Stock Forests)以外の原産地証明の確認を行います。パーム油について、RSPO認証油への切り替えを行います。

また、業界団体活動に積極的に参画し、持続性に配慮された森林資源の活用に努めます。

行動指針

- (1) 古紙・再生パルプ・ロス紙を優先して使用します。
- (2) PEFC等の第三者が認証した森林資源を優先して使用します。
- (3) 第三者認証がとれない森林資源の場合は、以下が確認されたサプライチェーンの構築を進めます。
 - 原産地証明書やタグによりHCVFやHCSFからの伐採ではない。
 - 森林破壊ゼロが担保されている。
 - 産出地の労働者や先住民の人権、強制労働や児童労働禁止に配慮されている。
 - 産出地の法律・規則を守っている。

P.022 ユニ・チャームグループ環境基本方針

P.103 調達基本方針

リスクと機会

リスク

パルプの原料は計画的に植林・伐採した北米産スラッシュパイン(松)ですが、地球温暖化による渇水や過度の乾燥などが原因の森林火災などが発生して松の栽培が困難となった場合、原材料の需給バランスが崩れ、安定調達が困難になり、購買価格が上昇するなどのリスクがあります。パーム油については、持続可能性に配慮したRSPO(Roundtable on Sustainable Palm Oil/持続可能なパーム油のための円卓会議)などの認証油の需要が高まり、調達コストが上昇するリスクがありますが、一方で持続可能性に配慮しなかった場合は、卸店・小売業などの流通各社からの取り扱い停止や消費者の買い控えなどが発生するリスクがあります。

また、生物多様性を害する問題を発生させた場合は、原状回復のために多額の支出が発生するリスクがあります。

機会

持続可能性に配慮した認証材を積極的に活用することによって、原材料の安定調達やコストの抑制が期待できます。さらに、卸店・小売業との協働による生物多様性に配慮した商品の提供により、消費者の理解が得られ、売上の拡大も期待されます。また、成長が早く東南アジアでも計画的に植林・伐採が可能な広葉樹を原材料としたパルプを利活用することにより、当社が事業を展開しているアジアでの原材料の安定確保や輸送コストの低減などが期待できます。このような取り組みは「地産地消」による地域経済の活性化などにもつながると考えています。

マネジメント体制

当社は年4回、社長執行役員を委員長としたESG委員会で生物多様性に関する重点課題の計画と進捗を共有・報告しています。具体的な計画については、TCFDやTNFDのフレームワークに準拠して整理を行い、「環境目標2030」や「Kyo-sei Life Vision 2030」に沿って報告を行っています。

また、社外の専門家や有識者との意見交換を通じて、生物多様性に関する課題認識やマテリアリティの特定、見直しを行い、活動の指標を設定しています。森林由来原材料については、ESG本部と購買部門が協働で持続可能性が担保された第三者認証材への切り替えを進めています。

P.009 サステナビリティ推進体制

指標と目標

▶ 環境目標2030「森林破壊に加盟しない(調達対応)」

実施項目		2021年度実績	2022年度実績	2023年度目標	2023年度実績	2024年度目標	2030年目標	2050ビジョン
パルプ、パーム油の原産地(国・地域)トレーサビリティ確認	森林由来原材料*1	97.0%	97.1%	98.0%	99.2%	100%	完了	購入する木材について 自然森林破壊 ゼロ “0”社会の実現
	パーム油	77.2%	72.2%	80.0%	68.0%	95%		
認証パルプ(PEFC・CoC認証)の拡大	認証工場数比率*2	52.0%	56.0%	64.0%	64.0%	72%	100%	
	認証材調達比率*3	76.0%	72.3%	75.0%	72.6%	73%		
認証パーム油(RSPO)の拡大*4	—	77.2%	72.2%	80.0%	68.0%	95%	100%	
紙パンツ(紙おむつ)リサイクル推進	—	開発継続	2*5	2	2	2	10以上の自治体で展開	

*1 第三者認証材に加え、原産地(国・地域)トレーサビリティ確認ができた森林由来原材料(パルプ)の比率 *2 当社工場における PEFC・CoC 認証取得工場数の比率

*3 2023年度より調達比率の計算方法を「100%PEFC由来の主張が付されたパルプの仕入重量/パルプ全体の仕入重量」とし、船積み重量ベースから仕入重量ベースに変更しました。これに伴い、2022年度以前の数値も遡及して再計算しています

*4 認証パーム油は、マスバランス方式によるRSPO認証油 *5 2022年度より鹿児島県志布志市と大崎町の2つの自治体でリサイクル設備を運用(使用済み紙パンツの回収に関する実証実験については、2020年度に東大和市、2021年度に町田市で実施)

▶ Kyo-sei Life Vision 2030「地球の健康を守る・支える」

指標	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2030年目標
今までにないユニ・チャームらしい考え方で「3R+2R」を実践する商品・サービスの展開件数。	開発継続中	2件	2件	10件以上
紙パンツ(紙おむつ)リサイクル設備の導入件数。	開発継続中	1件	1件	10件以上

取り組み・実績

森林由来原材料

持続可能な森林由来原材料の調達

当社は、持続可能な森林由来原材料の調達を推進しています。商品の吸収体で使用されているパルプの多くは、北米および南米原産のFM(Forest Management/森林管理)認証林の針葉樹から作られています。また、生物多様性に著しい影響を与えるHCVFやHCSFから伐採された原材料は使用しないようにサプライヤーに要請しており、2016年度からは対象範囲を海外のローカルサプライヤーにも広げて持続可能な原材料の調達を進めています。

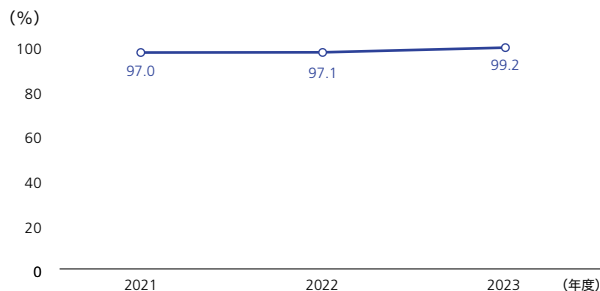
2023年度の森林由来原材料(パルプ)の原産地トレーサビリティ比率は、グループ全体で99.2%でした。

▶ 環境目標2030 森林由来原材料の原産地トレーサビリティ確認

2023年度実績
森林由来原材料の原産地
トレーサビリティ比率

99.2%

▶ 森林由来原材料の原産地トレーサビリティ比率



P.063 環境データ>森林由来原材料

■ 認証パルプ(PEFC・CoC認証)の拡大

グループ全体で、PEFCのCoC認証の取得を推進しており、2023年度はDSGタイの第1工場・第2工場とブラジルのジャグアリウナ工場が新たに認証を取得しました。2023年12月末時点で、対象25工場中16工場が認証を取得し、PEFC・CoC認証工場数比率は64.0%、パルプのPEFC認証材*1調達比率は72.6%でした。

PEFC・CoC認証を取得した工場で生産した商品のうち、日本の『ムーニーナチュラル』『ムーニーマンナチュラル』『ムーニー』『ムーニーマン*2』『ムーニーオヤスマン*2』、韓国の『MamyPoko』、マレーシアの『MamyPoko Pants』と『PETPET Pants』などのベビー用紙おむつの商品パッケージにPEFC認証ラベルを掲載しています。また、ソーシャルメディアやWebサイトを通じて、適切に管理された森林から作られたパルプ・紙を使用した商品であることを紹介し、消費者に向けて当社の取り組みの周知や浸透を図っています。



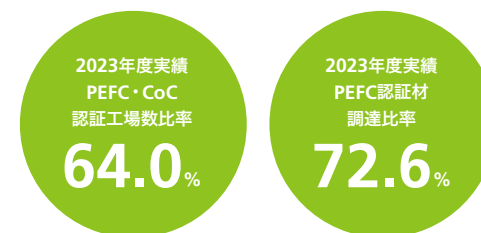
*1 「PEFC 100% Certified」と付されたパルプ

*2 スーパービッグサイズを除く

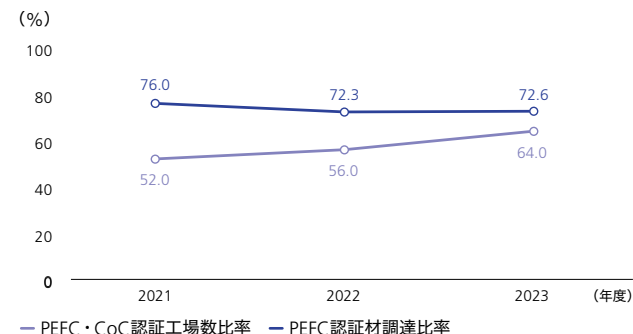


PEFC認証ラベルをパッケージに記載している商品の一例(左から日本、韓国、マレーシア)

▶ 環境目標2030 認証パルプ(PEFC・CoC認証)の拡大



▶ PEFC・CoC認証工場数比率、PEFC認証材調達比率



▶ PEFC・CoC認証取得一覧

認証取得年度	工場名
2020	カラワン第1・第2工場、イーストジャワ工場(インドネシア)
	ウェルグロー工場(タイ)
	福島工場、静岡工場、四国工場中央製造所、九州工場(日本)
2021	亀尾工場(韓国)
	DSGマレーシア工場(マレーシア)
	Hartzプレゼントブレイン工場(アメリカ)
	竹南工場(台湾-大中華圏)
2022	三重工場(日本)
2023	DSGタイ第1工場・第2工場(タイ)
	ジャグアリウナ工場(ブラジル)

「森林認証共同推進」に関する覚書を締結

当社と一般社団法人緑の循環認証会議(以下、SGEC/PEFCジャパン)は、2022年11月に持続可能な森林の利用と保護について以下の6分野の共同推進に関する覚書を締結しました。

また、覚書の(3)森林資源の保護につながる活動として、2023年10月に、SGEC/PEFCジャパンが実施する植樹活動に参加しました。



締結式の様子

P.049 【日本】「第5回少花粉スギ植樹祭」に参加

「森林認証共同推進」に関する覚書

- (1) PEFCラベルの使用や露出を増やす
- (2) サプライチェーンへ持続可能な森林の利用の働きかけを行う
- (3) 森林資源の保護につながる活動を実施する
- (4) PEFC認証材を使用することで得られるメリットについて広く啓発する
- (5) 販売製品以外の紙についても、PEFC認証紙の使用を最大限に考慮する
- (6) PEFC認証製品について、ホームページやニュースレター・SNS等の媒体、およびPEFC加盟国が参加するイントラネット等を活用して紹介する

紙パッケージにおける認証材の拡大

日本で発売しているマスクや生理用タンポン、化粧用コットン、キャットフードなどの紙パッケージおよび段ボールについて、2019年度から認証材への切り替えを進めています。



認証材を使用した紙パッケージの一例

事務用紙の認証材比率

オフィスで使用する事務用紙についても環境配慮を心がけており、2023年度は99.6%(100%古紙を配合した事務用紙が83.5%、認証材を使用した事務用紙が16.1%)が環境配慮品となりました。さらに、本社事務所においては、事務用紙をPEFC認証紙に順次切り替えています。

広葉樹パルプの活用

広葉樹は成長が早く東南アジアでも計画的に収穫できるため、広葉樹パルプを原材料に活用した商品開発を推進しています。広葉樹パルプの活用は、アジアで広く事業展開している当社にとって、原材料調達先の多様化や輸送コストの低減だけでなく、「地産地消」の促進による地域経済の発展につながります。

従来、当社が主に用いている針葉樹パルプと比較して、広葉樹パルプの繊維は細くて柔らかいため、成型が難しいという課題がありました。この問題に対し当社では、3Dファイバー加工により繊維同士を接合し、繊維をちぎれにくくする技術を開発しました。この加工によりハードな動きや汗などを吸っても型崩れしない吸収体を実現しました。2020年度には、この特長を活かした生理用ナプキン『ソフィ SPORTS』を発売しました。また2023年9月には、細くて柔らかい広葉樹パルプの特徴を活かし、高密度の吸収体が身体にフィットして動いてもモレにくく、通常タイプと比較して吸収力を約1.2倍に向上させた生理用品『ソフィ シンクロフィット 特に多い昼用 厚型タイプ』を発売しました。



植物由来成分を使用した商品の提供・拡大

当社は、植物由来成分を使用した商品の開発や提供を拡大しています。

P.031 植物由来プラスチックの使用

オーガニック商品の提供・拡大

当社は、土壌や水質への環境負荷を最小限に抑えたオーガニックコットンを配合した商品の展開を拡大しています。

日本における取り組み

日本では、ベビー用紙おむつ『ムーニーナチュラル』『ムーニーマンナチュラル』や、生理用品『ソフィ オーガニックコットン』のラインアップ拡充に加えて、2023年度は尿もれケア専用品『ライフリー さわやかパッド オーガニックコットン』や、生理用ナプキン『ソフィ センターインコンパクト1/2 オーガニックサボンの香り』などのオーガニックコットンを配合した商品を発売しました。

オーガニックコットンを使った商品数(日本)

年度	商品数
2021	23
2022	33
2023	53



【インドネシア】における取り組み

インドネシアでは、2022年度に赤ちゃんの肌と直接触れる表面シートの一部に、オーガニックコットンを使用したベビー用紙おむつ『MamyPoko Royal Soft Organic Cotton』を発売しました。この商品には、農薬を一切使用せず、自然に栽培されたことを証明する、Control Union Certification B.V.のOCS 100の認定を受けたオーガニックコットンのみを使用しています。この商品は、消費者の声に耳を傾けた商品であることが評価され、2023年10月にインドネシア国立記録博物館の認定を獲得しました。



使用済み紙パンツのリサイクル推進

当社は、2015年度より使用済み紙パンツリサイクルの実証実験を続けてきました。2022年6月に鹿児島県内の一部の介護施設で、リサイクル原材料を吸収部材の一部に活用した紙パンツの使用が開始され、使用済み紙パンツの水平リサイクルが実現しました。当社のリサイクルシステムは、回収した使用済み紙パンツを洗浄・分離し、取り出したパルプに当社独自のオゾン処理を施すことで、排泄物に含まれる菌を殺菌し、衛生面・安全面・使用面において未使用の原材料と同等に再生するシステムです。

2023年度末時点で使用済み紙パンツのリサイクル設備を、鹿児島県志布志市と大崎町の2つの自治体で運用しています。

また、紙パンツの材料となるバージンパルプの製造には、木材を必要としますが、100人分の使用済み大人用紙パンツを1年間にわたりリサイクルした場合、60本分の森林資源を使わずに済むことが分かっています。^{*1}



^{*1} 2024年3月ユニ・チャーム調べ

▶ 環境目標2030 紙パンツ(紙おむつ)リサイクル推進



P.025 循環型社会の実現に向けたRefFプロジェクト

森林保全活動

●【日本】「第5回少花粉スギ植樹祭」に参加

当社は2022年度からSGEC／PEFCジャパンが主催する植樹祭に参画しています。2023年度は10月に開催された「第5回少花粉スギ植樹祭」へ参加し、マッチングファンド^{*2}を通して少花粉スギの苗木約200本を寄付しました。



^{*2} 「被災地支援」を目的に創設。社員が着用するオリジナルのポロシャツやジャンパー、グッズなどを社内で販売。社員の購入した代金相当額と同額を寄付する制度

P.111 【被災地支援】社員参加型のマッチングファンド

●【マレーシア】マングローブの植樹

マレーシアの現地法人は、2023年6月に、マレーシア天然資源・環境・気候変動省が立ち上げた「Greening Malaysia - Our Trees, Our Life」キャンペーンを支援するため、NGO団体と協力してマングローブの植樹を行いました。このイベントには30名の社員が参加し、50本の苗木を植えました。



●【ブラジル】社員の意識向上を目指して

ブラジルの現地法人では、2023年6月、社員の森林保全に対する意識を向上させるために、樹木などの苗木を合計400本配布しました。



●【インド】環境の日に合わせた取り組み

インドの現地法人では、2023年6月、世界環境デーに合わせて、社員が各工場周辺の清掃活動と植樹を行いました。

●【ベトナム】アカシアマンギウムアセチルの植樹

ベトナムの現地法人では、2023年11月、バクニン工場周辺にアカシアマンギウムの苗木約1,300本を植樹しました。



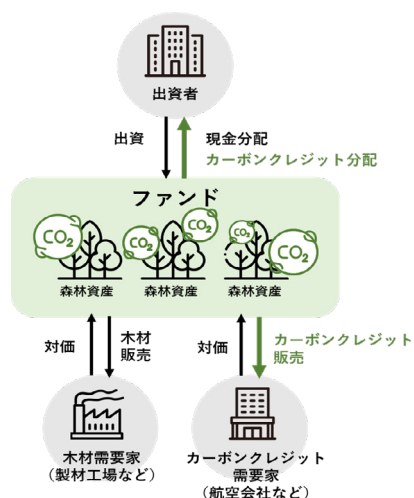
●【インドネシア】グリーンキャンペーンに参加

インドネシアの現地法人は、2023年12月に、工場のあるカラワン工業団地で開催されたグリーンキャンペーンに参加し、工業団地内の36社と共同で、マンゴーや月桂樹の苗木や野菜の苗など合計1,150本を植樹しました。



■ 森林ファンド「Eastwood Climate Smart Forestry Fund I」に参画

当社は、住友林業グループが2023年6月に組成、運用を開始した森林ファンド「Eastwood Climate Smart Forestry Fund I」に参画しています。このファンドは、当社を含む日本企業10社からの出資金によって、木材生産が目的である従来の森林経営に加えて気候変動対策にも資する持続的な森林経営を行うものです。出資企業には、森林の適切な管理を通じて、木材販売等から得られる利益や、森林から生み出されるカーボンクレジットが還元され、社会全体のカーボンオフセットへの貢献を目指します。



■ 【タイ】森林カーボンクレジットプロジェクトに参画

タイの現地法人は、2023年8月にタイ王室後援の下、Mae Fah Luang財団が主催する「持続可能な開発のための森林カーボンクレジットプロジェクト」に日用品などの消費財メーカーとして初めて参画しました。このプロジェクトは、森林の適切な保護や森林火災の防止、生物多様性の保全、森林カーボンクレジットによる地域社会の持続的な収入の創出を目指しています。

パーム油

■ 持続可能なパーム油の調達

当社は、2017年度にRSPOへ加盟し、持続可能な認証パーム油の調達を進めています。

ペットフードで使用しているパーム油については、不二製油グループのRSPO認証油を使用しており、不二製油グループではパーム油の供給元の搾油工場・農園までのトレーサビリティの向上を進めています。

2023年度のマスバランス方式*によるRSPO認証油の調達量は113.1tonで、原産地トレーサビリティ比率は68.0%でした。今後も品質・調達ルートを確認しながら持続可能な調達活動を続け、当社が購入する全てのパーム油をRSPO認証油に切り替えていきます。

* 認証農園で生産された認証油が流通過程で他の非認証油と混合される認証モデル。物理的には非認証油を含んでいますが、購入した認証農園と認証油の数量は保証されます



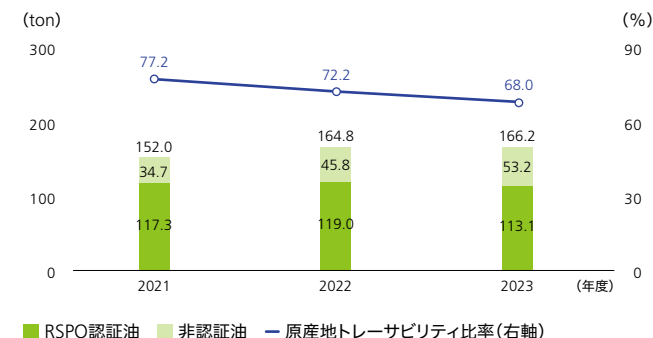
▶ 環境目標2030

パーム油の原産地(国・地域)トレーサビリティ確認／
認証パーム油(RSPO)の拡大

2023年度実績
パーム油の原産地
トレーサビリティ比率
68.0%

2023年度実績
認証パーム油(RSPO)
調達比率
68.0%

▶ パーム油の調達量と原産地トレーサビリティ比率



web 当社の進捗状況は下記でご確認いただけます。
<https://rspo.org/>

web 不二製油グループ本社株式会社>パーム油のサステナブル調達
https://www.fujiolioholdings.com/sustainability/palm_oil/